

第3回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 平成5年3月10日（水）
14:00～14:10
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 (1) 前回議事要旨の確認について
(2) 平成4年度外国人招へいについて
4. 資 料 委3-1 第2回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
委3-2 平成4年度宇宙開発委員会外国人招聘について（案）

第 2 回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨（案）

1. 日時 平成 5 年 2 月 2 4 日（水）
午後 2 時～ 2 時 2 0 分
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題 (1) 前回議事要旨の確認について
(2) 第一次国際微小重力実験室搭載実験、粒子加速装置を用いた宇宙科学実験、第一次材料実験及び磁気圏観測衛星の開発結果に関する評価に関する審議について
4. 資料 委 2-1 第 1 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
委 2-2 第一次国際微小重力実験室（IML-1）搭載実験、粒子加速装置を用いた宇宙科学実験（SEPAC）、第一次材料実験（FMPT）及び磁気圏観測衛星（GEOTAIL）に係る開発結果の評価について
5. 出席者

| | |
|--------------|---------|
| 宇宙開発委員会委員長代理 | 野 村 民 也 |
| 宇宙開発委員会委員 | 内 田 勇 夫 |
| " | 田 島 敏 弘 |
| " | 山 口 開 生 |

| | |
|--------------------|-----------|
| 関係省庁 | |
| 通商産業省機械情報産業局次長 | 中 川 勝 弘 " |
| 運輸省運輸政策局次長 | 和 田 義 文 " |
| 運輸省気象庁総務部長 | 亀 甲 邦 敏 " |
| 郵政大臣官房審議官（通信政策局担当） | 大井田 清 " |
| | 他 |

| | |
|------------------|---------|
| 事務局 | |
| 科学技術庁研究開発局長 | 石 井 敏 弘 |
| 科学技術庁研究開発局宇宙企画課長 | 大 熊 健 司 |
| | 他 |

6. 議事

(1) 前回議事要旨の確認について

第1回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（資料委2-1）が確認された。

(2) 第一次国際微小重力実験室搭載実験、粒子加速装置を用いた宇宙科学実験、第一次材料実験及び磁気圏観測衛星の開発結果に関する評価に関する審議について

事務局より、資料委2-2に基づき説明が行われた後、決定された。

平成4年度宇宙開発委員会外国人招聘について(案)

平成5年3月10日

宇宙開発委員会

決 定

平成4年度における宇宙開発委員会外国人招聘として、下記の1名を平成5年3月17日より24日までの間招聘することとする。

記

氏名：スハルソ マルタディウィルヤ (Mr.Suharso Martadiwirya)

役職：インドネシア国立航空宇宙研究所副長官 (リモートセンシング担当)

(Deputy Chairman for Remote Sensing Affairs,

Indonesian National Aeronautics and Space Institute(LAPAN))

(参考1)

招聘目的

現在、日本-インドネシア間の地球観測衛星データ受信・利用に係る協力についての準備が、NASDAとインドネシア国立航空宇宙研究所(LAPAN)の間で進められている。この協力の下、NASDAは、インドネシアの衛星データ受信局に日本の地球観測衛星(JERS-1等)のデータの受信能力を付加するための整備等を行うことを計画している(平成5年度には7億円の予算を用意している。)

なお、当該局の整備、その運用等に係る協力の枠組みとしては、1981年に締結された日・インドネシア科学技術協力協定の下、NASDA-LAPAN間で了解覚書(MOU)を締結予定である。

マルタディウィルヤ氏の所属するLAPANは、インドネシア共和国大統領直轄の組織であり、同氏は、LAPAN内におけるリモートセンシング分野での最高責任者として副長官(リモートセンシング担当)の地位にある。更に、過去10年来、インドネシアより宇宙開発委員会外国人招聘の実績がなく、現段階で同氏を招聘し宇宙開発委員等と意見交換を行うことは、時宜を得ており、今後の協力を進めていく上で有意義と考えられる。

(参考2)

招聘日程 (案)

3月17日 (水) 成田着

リモートセンシング技術センター表敬訪問及び意見交換 (東京泊)

18日 (木) 宇宙開発事業団地球観測センター視察及び打ち合わせ (東京泊)

19日 (金) 宇宙開発委員表敬訪問 (東京泊)

20日 (土)、21日 (日) 自由 (東京泊)

22日 (月) 東海大学情報技術センター視察及び意見交換

宇宙開発事業団との打ち合わせ (東京泊)

23日 (火) 宇宙開発事業団筑波宇宙センター視察及び打ち合わせ

気象研究所視察及び意見交換 (東京泊)

24日 (水) 成田発

招聘者略歴

1. 氏名： スハルソ マルタディウィルヤ (Mr. Suharso Martadiwirya)
2. 生年月日： 1936年10月29日生 (56才)
3. 所属機関： インドネシア国立航空宇宙研究所 (LAPAN)
4. 役職： 副長官 (リモートセンシング担当)
5. 学歴： 空軍士官養成学校卒、空・陸軍大学校卒
6. 職歴： 1962年～1990年 インドネシア空軍
1990年～現在 LAPAN副長官 (リモートセンシング担当)

インドネシア国立航空宇宙研究所 (LAPAN) の概要

LAPANは、1963年に政府研究機関の1つとして大統領令によって設立された。本社はジャカルタに所在する。インドネシア政府研究機関の通例として、LAPANの研究プログラムは研究技術担当国務大臣がこれを統括し、その予算は国務大臣官房長官が管理する。

LAPANの主な活動は、リモートセンシング及び気球、小型ロケットを使用した高層大気の解析である。1991年、インドネシア共和国政府は、研究技術担当国務大臣を通じてLAPANに対し資源管理及び農業のための気候予測の改善を目指したリモートセンシング技術の応用並びに大気研究の面での「国家開発」にその力を集中するよう訓令した。この訓令によって現在LAPANは、気候予測の向上を目指したリモートセンシング技術の応用及び気候モデル作成面での設備・能力に関する改善計画に取り組んでいる。

日本との協力関係については、京都大学超高層電波研究センター (RASC) との赤道大気レーダ建設、及び、郵政省/NASDAとのPARTNERS計画 (ETS-Vを利用した電波送信実験)、並びに、現在準備が進められている宇宙開発事業団との地球観測衛星データ直接受信協力が挙げられる。

LAPAN組織図

